

歴史を利用した地域イベントとまちとの関係の変遷

-50年おきに行われる家康公薨去記念事業を対象として-

The Transition of Relationship between Regional Events and Town Using History :
A Case Study of Historical Events Related to Ieyasu Tokugawa Took Place Every Fifty Years

長谷川千紘
HASEGAWA Chihiro

1. 序論

(1) 研究背景

近年、歴史資源や歴史に関するテーマを利用したイベント（歴史イベント）が各地で見られ、そのまちづくりへの展開の期待や可能性が指摘されている。愛知県中部に位置する岡崎市は徳川家康生誕の地であり、家康公薨去をテーマに、複数の歴史イベントに、長きにわたって地域をあげて取り組んでいる。この歴史を利用した地域イベント（地域イベント）は、家康が亡くなった 1615 年から 300 年という節目を迎えた 1915 年に始まり、その後 1965 年、2015 年と 50 年ごとに実施されており、家康の功績や徳川の続いた時代を思い起こし再考する複数の歴史イベントなどが様々な形態で展開させていている。まちの様相が大きく変化したことが考えられる、これら 100 年間において、各地域イベントの特徴とその成果を、地域イベント開催前後のまちの状況の変化との関係を踏まえて改めて検証する必要がある。

(2) 研究目的と対象

愛知県岡崎市で徳川家康公薨去にちなんで、これまでに 50 年周期で開催されてきた「家康公薨去記念事業」（「家康忠勝両公三百年祭（以下、300 年祭）」（1915 年）、「家康公三百五十年祭（以下、350 年祭）」（1965 年）、「徳川家康公顕彰四百年記念事業（以下、400 年記念事業）」（2015 年））を対象に、それぞれの地域イベントで取り組まれた歴史イベントの内容と開催前後のまちとの関係を整理したうえで、各地域イベントの果たした役割を明らかにし、歴史イベントのあり方について考察することを目的とする。

(3) 論文の構成と研究方法

第 1 章を序論とし、研究背景および目的、対象、方法と本論文で扱う用語の定義を示す。第 2 章では、対象地である岡崎市の特徴をみるため、文献資料から岡崎市の概要と変遷を整理し、徳川家と岡崎市の関係を明らかにする。また岡崎市の指定文化財の指

定背景・状況・所在地を把握し、岡崎市の文化的特徴を明示する。第 3 章では、家康公薨去記念事業の内容を分析・比較し各地域イベントの特徴を把握するため、家康公薨去記念事業が行われた際に作成された記録誌やその当時発行された新聞記事から、地域イベントの開催背景・目的・期間・内容、主催者の性格、各歴史イベントの開催場所を把握し、まちおよび徳川家をはじめとする歴史との関係から特徴を整理する。第 4 章では、各地域イベントのまちに果たした役割を把握するため、家康公薨去記念事業前後に刊行された岡崎市の地図、当時の時代背景から、事業前後の岡崎市の状況を把握する。第 5 章を結論とし、各章を踏まえて、岡崎市において家康公薨去記念事業が果たした役割を考察し、地域イベントのあり方について提言する。

2. 岡崎市の概要

(1) 地理的特徴

岡崎市は愛知県の中央部に位置し、名古屋市からは約 35km 離れている。人口は 2017 年 12 月 1 日現在 386,595 人であり、現市域の広がりは、東西 29.1km、南北 20.2km、総面積は 387.24km²である。市内には国道 1 号線が東から西へと通っており、名古屋と豊橋を結ぶ中間地点として発展してきた。東岡崎駅北西部が旧岡崎町で現在も中心市街地となっており、岡崎城や岡崎公園など主要な地域資源や都市施設が集まっている。

(2) 起源

享禄 3 年（1530）、松平清康が三河を平定し、翌年岡崎城を現在の場所に移築した。のちに、田中吉政が岡崎城主となつて城下町の建設が始まり、二十七曲り（屈折の多い道筋）が整備されていった。江戸時代に入ると、歴代の将軍によって岡崎市内の寺社仏閣の修理が行われた。明治時代の廃藩置県後、廢城となつた岡崎城は城郭が取り壊されたが、旧本丸

の区域が公園となった。のちに本多家から譲り受け、岡崎町が維持管理を行った。

(3) 都市化の進展

岡崎市では明治 22 年（1889）には町制が施行され、大正 3 年（1914）に広幡町と合併した後、大正 5 年（1916）に市制が施行された。昭和時代には 4 回にわたって合併（昭和 3 年、昭和 30 年 2 月・4 月、昭和 37 年）が行われ、平成 18 年（2006）には山間部の額田町と合併した。

市域の拡大とともに道路の整備や公共施設の移転・新築が行われてきた。昭和 34 年（1959）には岡崎城天守閣が復元され、それに合わせて市内主要路の整備も行われた。額田郡公会堂や図書館などの公共施設は、昭和 45 年（1970）以降に多く整備された。

(4) 文化財と徳川家

岡崎市と深いかかわりを持っている徳川家と関係する寺社仏閣等が保有している文化財の数を、文化財の種類とともにまとめた（表 1）。

文化財保有数が一番多いのは大樹寺である。保有している文化財の種類も大樹寺は有形民俗文化財を除いて全て保有している。大樹寺は岡崎市の歴史の中でも徳川家と非常に関係が深く、家康が生きていた時から家康が亡くなった後も、家康の祖父松平清康や父の広忠といった松平 8 代の廟所も寺内にあることから、後継の將軍たちによって修理・修復作業が行われており、江戸時代においてかつ徳川家にとって大樹寺は非常に重要な寺院であったことがわか

る。また、国・県・市指定の内訳を見ると、大樹寺は建造物と絵画において、それぞれ指定を受けた文化財を所有しており、他の場所と比べても重要な価値を持つ場所といえる。妙源寺や滝山寺にも文化財の保有数が多い。また、滝山寺に隣接して滝山東照宮があり、徳川家と関係する寺社仏閣は岡崎市内に分散している。

3. 家康公薨去記念事業

(1) 概要

各家康公薨去記念事業の開催目的・期間・主催者・事業数を整理した（表 2）。家康公薨去記念事業主催者が行うイベントを主催イベント、主催者以外の団体が行うイベントを関連イベントとした。

300 年祭は在東京本多子爵家が主催者となり、3 日間開催された。実質は副長を務めた志賀重昂が、事業全体の指揮を執った。国粹主義者であり「日本風景論」を執筆したことで知られる志賀重昂は、生まれ故郷であり、徳川家康を輩出した三河に郷土愛・郷土意識を強く抱いていたことが指摘されており¹、イベントの内容の考案、ゲストスピーカーの選定、提灯行列の歌の作詞、展覧会への出品、講演会の講師などを行い、この事業に対して大いに貢献し、成功へ導いたとされている。300 年祭では、大行列と神輿渡御の二つのイベントが同時に行われた。記念講演会では、「家康と日英の関係-附忠勝公の大所-」「徳川家康を論して-功臣としての本多忠勝の事蹟に及ぶ-」という演題で行われた。その

（表 1）岡崎市の文化財と徳川家との関わり

	建造物			絵画			彫刻			工芸品			書跡			史跡			天然記念物			有形民俗文化財				
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	計				
岡崎市	13	2	16	6	8	57	3	7	49	3	9	42	1	1	21	3	3	24	1	3	28	0	2	7	309	
大樹寺	1	1	2	2	3	2		2	1			4	1						1		1				21	
妙源寺	1			4	3				2			3			5										18	
滝山寺	2						1	1	7		3	2			1										17	
隨念寺					10							2			1										13	
信光明寺	1	1			4						3			2											11	
満性寺				3	1		1	1				1		3											10	
松應寺					1						4								1						6	
天恩寺	2				2		1														1					6
甲山寺		1			2			2																		5
滝山東照宮	1					1			1	2																5
伊賀八幡宮	1	1						1																		3
六所神社	1																						1	2		
龍城神社															1											1
岡崎城															1											1
大林寺															1											1
宝福寺					1																					1
是字寺																										0
計	10	1	5	6	6	27	1	4	16	2	3	18	1	1	12	0	0	5	0	0	2	0	0	1	121	

（国：国指定、県：県指定、市：市指定）

(表2) 家康公薨去記念事業の目的・主催者等

	家康忠勝両公三百年祭（1915年）	家康公三百五十年祭（1965年）	徳川家康公顕彰四百年記念事業（2015年）
開催目的	岡崎町を社会に紹介、町民の公徳心・海外思想の養成、偉人追慕	「花と家康の岡崎」を紹介宣伝、地域経済の伸展と観光に寄与	岡崎の知名度向上と家康公を核とした交流人口の増加による地域活性化 徳川家康が築いた時代の再考、その知恵を未来へ発信、地域の魅力向上と活性化
期間	1915年4月16日～18日	1965年4月1日～20日	2015年1月1日～12月31日
主催者	在東京本多子爵家	家康公350年祭奉賛会	徳川家康公顕彰四百年記念事業岡崎部会実行委員会
事業数	主催イベント（9）、関連イベント（22）	主催イベント（16）、関連イベント（39）	主催イベント（8）、関連イベント（61）

他、岡崎協賛会による運営の下、両公記念展覧会や大樹寺の法会、スペインおよび南米幻燈会といった関連イベントが行われた。

350年祭では地域団体が主体となって、20日間かけて主催イベント・関連イベントを行った。両イベントともに300年祭に比べて非常に多くなった。350年祭では、事業の記念に家康の幼少をテーマに作曲された「竹千代音頭」に合わせて、市民が発表して見せたり、カーニバルのような市内の主要道路を練り歩くものが多く、全国チンドンマン・コンクールや奉賛車両カーニバルなどが行われた。元々明治時代から龍城神社の例祭であったが、昭和23年（1948）の龍城神社の火災により行われなくなってしまい、昭和34年（1959）の岡崎城天守閣再建を契機に復活し、現在まで毎年行われるようになった家康行列もその一つである。

400年記念事業では、静岡市主導で浜松市と連携して1年間かけて行われた。全体は3市をまとめた徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会が主催し、各市の事業運営は各市部会によって行われた。（表2）の目的の上段が岡崎部会の目的で、下段が徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会の目的である。400年記念事業の主催イベントの中心であった岡崎城まつりは本事業だけで行われたものである。岡崎城を「おかげさき大江戸座」、「家康公夢シアター」とテーマごとにエリアを設定し、家康の軌跡を辿りながら、江戸の食・暮らし・娯楽を体験できるイベントが行われた。12月に行われた家康公生誕祭では、300年祭で行われた提灯行列が再現された。

（2）事業内容の分析

各地域イベント全体の特徴を把握するため、主催者・歴史イベントの開催地の分布・観客の関わり方について分析した。

（i）主催者の変遷

300年祭の主催者は、在東京本多子爵を中心と

して、総長を土屋光春、副長に小柳津要人・志賀重昂といった名士が中心となっていた。その他、主催者には当時の県議員や町会議員、岡崎銀行頭取、岡崎商工会議所会頭などが含まれていたが、実質取り仕切っていたのは、先述した通り副長の志賀であり、その主義主張が色濃く反映されているのは、300年祭の開催目的からも読み取れる。300年祭の関連イベントは大祭餘興事務所や岡崎協賛会主催が多い。これらの団体は、町会議員らによって編成された団体である可能性が高い。

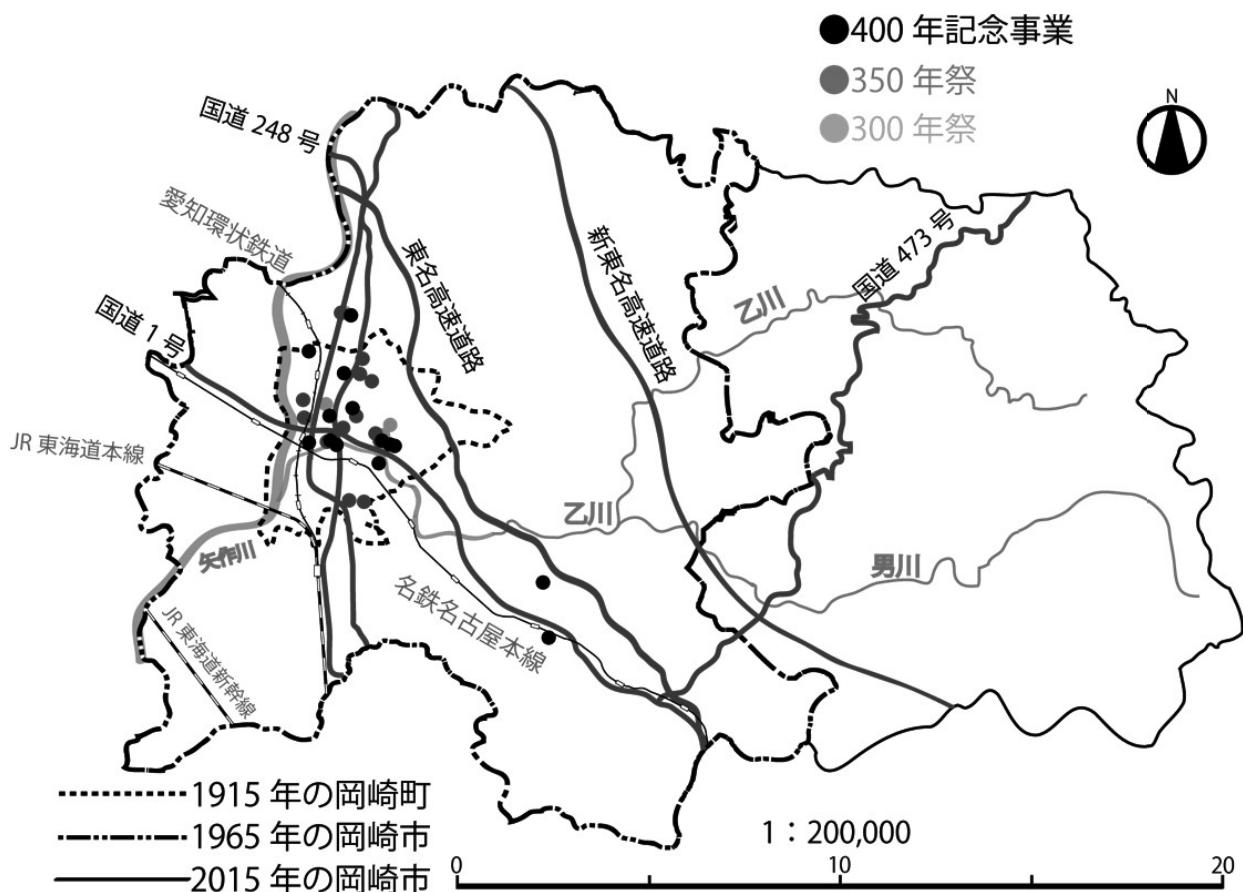
350年祭は、このために結成された家康公三百五十年祭奉賛会が主催者であった。その常任委員は岡崎市役所職員、岡崎警察署、岡崎消防署、岡崎商工会議所職員、岡崎市文化財保護審議会、岡崎市総代会連絡協議会、岡崎商店街連盟、岡崎市仏教会、神社序岡崎支部、岡崎婦人連絡協議会、岡崎市青年団体連絡協議会、住職、宮司、岡崎市少年団体後援者連絡協議会、岡崎青年会議所、名古屋鉄道株式会社、龍城神社敬神婦人会、岡崎旅館組合などさまざまな地域団体が含まれていた。この事業の関連イベントは、オール三河婦人手芸編物作品展が婦人文化センターで行われていることや、愛石展示会が本町ストアで行われていたことから見て、主催者の一部である各地域団体が主催して関連イベントを運営していたと考えられる。

400年記念事業の岡崎部会実行委員会の構成委員は、先述の通り岡崎市役所・岡崎商工会議所・岡崎市観光協会の職員で構成されていた。関連イベントには、岡崎市美術館や岡崎市文化芸術部中央図書館といった団体や、愛知県観光交流サミット、吉本興業などがツアー、情報発信のイベントを行った。

以上から、300年祭では名士や町会議員が中心となって岡崎の有志と共に事業を行っていた。実質は志賀が取り仕切っており、郷土愛の高揚が色濃く反映されたといえる。350年祭では市行政に加えて、様々な地域団体が運営に携わっていた。400年記念事業では、ほぼ行政職員が運営していた。このように、300年祭から350年祭にかけては運営に関わった団体は増えたものの、400年記念事業では行政職員だけが携わっており、明らかに地域の人々の関わりが減ってしまったことがわかった。

（ii）イベント開催地の変遷

各地域イベントが開催される度に市域は合併によって拡大していく（図1）。300年祭ではほとんどのイベントが岡崎町内で行われていたが、前述した



(図1) 各回において行われた家康公薨去記念事業の場所と市域の広がり

通り徳川家と深く関係するが岡崎町外の大樹寺でも、300年祭の一環として法会が行われており、徳川家との関係から開催地として選ばれたことがうかがえる。市町村合併によって市域が拡大した後の350年祭でも開催地の広がりはなく、旧岡崎町内でほとん

(表3) 事業ごとの徳川およびイベントの関係

		参加型	能動体験	受動体験	関係者のみ	総計
300年祭	関係場所	内容関連あり		1	3	6
	内容関連なし	5	2	2	2	9
350年祭	関係場所	内容関連あり		2		2
	内容関連なし	1	7	6	14	
400年記念事業	関係場所	内容関連あり	2	2	3	7
	内容関連なし	8	3	1	1	13
	その他場所	内容関連あり	2	3		5
	内容関連なし	16	4	9	1	30

網掛け: 5件以上の上位3位

どのイベントが行われた。旧岡崎町外では、300年祭に続いて大樹寺において大法要が主催イベントとして行われ、さらにゴルフ場の葵カントリーにおいて関連イベントとしてゴルフ大会が行われた。その後の市町村合併によって、さらに市域が拡大した後の400年記念事業でも、拡大した範囲が山間地ということもあり、イベント開催地のほとんどは依然として旧岡崎町内であった。旧岡崎町外では、引き続き大樹寺が徳川家康公四百回忌法要で開催地となった他は、藤川宿のあった藤川町、岡町にある愛知産業大学で、それぞれ田んぼアートや家康公四百年祭おかげさきPR隊退任式といった徳川家とは関係のない関連イベントが開催された。

3事業において継続して開催地となった場所は、岡崎公園（岡崎城を含む）・龍城神社・伊賀八幡宮・大樹寺であり、大樹寺を除いて岡崎市の中心部に位置している。いずれも徳川家に関連しており、指定文化財を持つ場所でもある。しかし、大樹寺に次ぐ指定文化財数を持つ妙源寺や滝山寺は、徳川家と関連があつても、中心部から離れていることもあり、イベントの開催地となることはなく、市内中心部に

あり、徳川家に関連のある場所が継続してイベントの開催地として選ばれたといえる。

(iii) イベント別観客の関わり方

各イベントを観客や住民の関わり方から参加型、能動体験、受動体験、関係者のみの4つに分類した（表3）。参加型は家康行列のような住民らが見られる対象になるものを指し、能動体験はゴルフ大会のような観客が五感を持って体験するものを指し、受動体験は記念シンポジウムのような観客が見るだけのものを指し、伊賀八幡宮武道的神事のような関係団体だけで行われるものと関係者のみとした。

事業ごとに開催地の性格およびイベントの内容と観客の関わり方の関係をみると、300年祭および350年祭では、家康行列以外に開催地及び内容とともに徳川家と関係した参加型イベントが神輿渡御と竹千代音頭舞踊発表会の1件ずつあったが、400年記念事業では家康行列のみになっていた。300年祭では徳川家と関係のある岡崎公園内で角力や生花大会などの参加型イベントが多く行われていた。徳川家と関係のない場所では、大煙火のような受動的イベントが行われていた。350年祭では参加型イベントの割合が多くなり、徳川家と関係のない場所では軟式野球大会や川柳大会などが、岡崎公園内では芸妓たちによる舞踊や剣舞などが行われていた。400年記念事業では徳川家に関係するツアーや講演会など受動体験イベントが多く行われるようになったが、それよりも関係者のみによるプロモーションなどの外部への発信が多くなっていた。

4. 家康公薨去記念事業と岡崎市のまちづくり

岡崎市のまちづくりと家康公薨去記念事業の関係をみるために、事業前後での岡崎市の状況を把握した。

(1) 300年祭前後の岡崎市

300年祭前の明治43年（1910）頃から、市制施行調査委員が置かれ、「市制施行内申書」や「岡崎町二市制実施意見書」を提出するなど、市制施行に向けた運動が本格的に始まった。大正2年（1913）には龍城神社の本殿と拝殿を新しくし、額田郡公会堂

（現：岡崎市郷土館）が建設された。翌年に、岡崎町宝来座で市制施行実現のための町民大会が開かれた。既に述べたように、大正4年（1915）の300年祭は岡崎公園を中心に開催され、龍城神社もこの事業での利用を契機に、様々な祭典で使われるようになり、同様に額田郡公会堂も使われるようになった。その後岡崎公園では公園改造の機運が高まり、大正

8年（1919）に「岡崎公園改修5カ年計画」が立てられ、再整備された。

(2) 350年祭前後の岡崎市

昭和30年（1955）に2回と昭和37年（1962）に1回行われた昭和の大合併で市域が拡大した。昭和33年（1958）～昭和38年（1963）の5年にわたって岡崎市では文化財指定が多く行われた。昭和34年（1959）には岡崎城天守閣が復元され、それに合わせて市内主要路の整備も行われた。350年祭では、整備された主要路での開催が多かったが、指定された文化財はイベントの対象にはならなかった。事業後の昭和42年（1967）には、岡崎市民会館が開館し、翌年には東名高速道路の開通に伴い岡崎インターチェンジの供用が開始された。昭和45年（1970）以降、公共施設が相次いで建設されていった。これらは、高度経済成長期の基盤整備の一環と考えられる。

(3) 400年記念事業頃の岡崎市

400年記念事業前に、公共施設の整備はほぼ完了した。事業と同じ頃には、広域観光周遊ルート形成促進事業の「昇龍道（SHORYUDO）」計画が観光庁から認定を受け、400年記念事業は「昇龍道プロジェクトアクション・プラン」に組み込まれた。また、歴史的風致維持向上計画が主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）から認定を受け、本地域イベントのテーマである徳川家康生誕の地以外にも、東海道沿道での信仰・祭礼や稻作儀礼、山間部での山里のくらしなどが重点区域となっている。岡崎公園は2017年現在、4つの岡崎市の計画案（中心市街地活性化推進計画・歴史まちづくり計画・乙川リバーフロント地区整備推進・岡崎（城址）公園整備計画）の対象地域内にあり、新しい歴史公園かつ公共施設として整備される予定である。

5. 結論

市制施行前年に開催された家康忠勝両公三百年祭は、志賀重昂が主体となって愛郷心の醸成を図り、市制施行に向け住民の意識を揃えて高めるねらいと、岡崎公園の認識を高めた効果があった。志賀自身が徳川家康生誕の地である三河に誇りを抱いており、その主義主張が強く反映されたといえる。

市町村が合併し、主要道路が整備された後に開催された家康公三百五十年祭は、地域団体が主体となって開催されており、新しく市町村合併した地域の

住民も参加しやすいように参加型イベントを増やし、コミュニティ形成や、新しい道路のけら落としというねらいがあったと思われる。

高度経済成長期の様々な公共施設整備などを経て開催された徳川家康公顕彰四百年記念事業は、国策でもある周辺自治体との広域連携事業に組み込まれ、行政主体で外部への発信をねらいとしていた。

以上のように、50年周期で取り組まれている事業ではあるが、回を追うごとに市民や住民が参加し、徳川家に内容もしくは場所が関係するイベントは減少していった。300年祭・350年祭は、新たな行政や整備された基盤を提示し、人心の一体化を図る象徴として徳川家を取り上げたことが推察される。これは、それぞれ市制施行前年と市町村合併・基盤整備直後という、まちの状況が大きく変化している中の開催と関係していたといえる。しかし、まちの状況が比較的安定した中で開催された400年記念事業は、まちの状況よりも地域間交流や広域連携といった国策に準じたものとなっていました。また、市町村合併していくことで、市域全体が徳川家と関係しているとはいがたくなり、市町村合併しているにも関わらずイベント開催地の広がりは限定されてしまっていることも考えられる。

歴史イベントにおいて、地域の実情を踏まえた目的を設定することや空間の使い方を提示する役割の再確認を行うことが必要となる。市内の様々な歴史的風致が歴史的風致維持向上計画にて示されている現在、徳川家だけではない市内各地の歴史資源を各地の実情に合わせて活かす工夫が求められる。

注

- 1) 岡田 洋司 (2014) 志賀重昂における郷土意識と国家意識、現代マネジメント学部紀要 第2巻第2号, pp.39-52

参考文献

- 柴田顕正編『岡崎市史第7巻-社寺編-』岡崎市役所 1929年9月20日発行
新編岡崎市史編集委員会編『新編岡崎市史近世』新編岡崎市史編さん委員会 1992年7月1日発行
新編岡崎市史編集委員会編『新編岡崎市史近代』 1991年3月30日発行
新編岡崎市史編集委員会編『新編岡崎市史建造物』新編岡崎市史編さん委員会 1983年6月30日発行
新編岡崎市史編集委員会編『新編岡崎市史現代』新編岡崎市史編さん委員会 1985年12月28日発行

新編岡崎市史編集委員会編『新編岡崎市史総集編』新編岡崎市史編さん委員会 1993年3月15日発行

新編岡崎市史編集委員会編『新編岡崎市史中世』新編岡崎市史編さん委員会 1989年3月31日発行

岡田太良次郎編『家康忠勝両公三百年祭紀要』家康忠勝両公三百年祭事務所 1915年8月20日発行

岡田太良次郎編『岡崎』家康忠勝両公三百年大祭岡崎協賛会 1915年発行

家康公三百五十年祭『あおいを偲ぶ』岡崎市・家康公350年祭奉賛会 1965年発行

家康公四百年祭イベントガイド 徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会事務局

井口貢『まちづくり・観光と地域文化の創造』学文社 2005年発行

徳川家康公顕彰四百年記念事業 事業報告書 徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会事務局

徳川家康公顕彰四百年記念事業 記録誌 徳川家康公顕彰四百年記念事業岡崎部会実行委員会

第6次岡崎市総合計画後期基本計画 第7期実施計画(平成27年度～平成29年度)

田代利恵「文化的なイベントが地域協働のまちづくりに果たす役割に関する研究-古い町並みを有する地方都市を事例に-」龍谷大学大学院政策学研究 1, 149-168, 2012-09-28

三矢勝司・秀島栄三・吉村輝彦「公共施設づくりにおいて地域密着型中間支援組織に求められる役割と成果に関する研究-岡崎市図書館交流プラザ Libra を事例に-」日本都市計画学会都市計画論文集, 48(3), 303-308, 2013

オンライン文献

愛知県ホームページ 「愛知の歴史まちづくり 岡崎市」<
[https://www.pref.aichi.jp/koen/keikan/aichi-rekishimachidukuri/okazaki/index\(okazaki\).html](https://www.pref.aichi.jp/koen/keikan/aichi-rekishimachidukuri/okazaki/index(okazaki).html)>最終更新日 2015年7月5日、最終閲覧日 2018年1月8日

愛知県ホームページ「岡崎市の歴史的資産」<
[https://www.pref.aichi.jp/koen/keikan/aichi-rekishimachidukuri/okazaki/index\(okazaki\).html](https://www.pref.aichi.jp/koen/keikan/aichi-rekishimachidukuri/okazaki/index(okazaki).html)>最終更新日 2015年7月5日、最終閲覧日 2017年11月5日

観光庁ホームページ「広域観光周遊ルート形成促進事業」<
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/kouikikankou.html>>最終更新日 2017年7月27日、最終閲覧日 2017年11月27日